九州大学整形外科専門研修プログラム

目次

１．　九州大学整形外科専門研修プログラムの理念
２．　整形外科専門医の使命
３．　九州大学整形外科専門研修プログラムの特徴
４．　九州大学整形外科専門研修プログラムの概要
　４．１　基幹施設
　４．２　連携施設
　４．３　研修ローテーションの具体例と単位取得例
５．　九州大学整形外科専門研修修了後の成果
６．　研修方法
　６．１　基本方針
　６．２　研修計画
　　①専門知識の習得計画
　　②専門技能の習得計画
　　③経験目標
　　④プログラム全体および各施設によるカンファレンス等の学習機会
　　⑤習得すべき学問的姿勢
　　⑥実施すべき学術活動とその指導体制
　　⑦コアコンピテンシーの研修計画
　　⑧地域医療に関する研修計画
　　⑨サブスペシャリティ領域との連続性について
　６．３　研修およびプログラムの評価計画
　　①専攻医の評価時期と方法
　　②指導医層のフィードバック法の学習
　　③専門研修プログラムの改善方法
　６．４　専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）
　６．５　整形外科研修の休止、中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件について
７．　専門研修プログラムを支える体制
８．　専攻医の募集人数と応募方法

１．整形外科専門研修プログラムの理念

整形外科専門医は、国民の皆様に質の高い運動器医療を提供することが求められます。このため、九州大学整形外科専門研修プログラムは、医師として必要な臨床能力および運動器疾患全般に関して、基本的・応用的・実践能力を備えた医師を育成し、国民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献すること、を理念としています。

２．整形外科専門医の使命

整形外科専門医は、あらゆる運動器に関する幅広い科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技術の修得に日々邁進し、高い診療実践能力を有する医師でなければなりません。従って、整形外科専門医の使命は、運動器疾患全般に関して、早期診断、保存的および手術的治療、ならびにリハビリテーション治療などを実行できる能力を備え、良質かつ安全で心のこもった医療を提供し、国民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献することです。

３．九州大学整形外科専門研修プログラムの特徴

①　全国の 47 の専門研修連携施設から成る豊富な研修病院群

九州大学整形外科学教室は 1909 年に開講した歴史ある教室であり、日本の整形外科学の発展に多大な貢献をしてきました。それ故、北は北海道から南は宮崎県まで、現在でも多くの関連病院を有しており、福岡県内は元より県外の地域医療にも貢献し続けています。そのうち 47 の関連病院では、新専門医制度における整形外科専門研修プログラム整備基準にある専門研修連携施設基準を満たしており、本プログラムにおいて九州大学病院を中心とした豊富な研修病院群を形成することが可能となっています。整形外科全領域を網羅した研修病院群をローテーションすることにより「偏りのない幅広い知識・臨床力」を身につけ、さらには全国有数の専門性の高い研修病院でより「高度な専門性」を身につけた整形外科医を育成することが本プログラムの理念です。

②　公平なローテーション制度

九州大学整形外科学教室では、以前より独自に 6 年間の後期研修期間を定め、九州大学病院と 40 以上の関連病院からなる病院群を原則一年毎にローテーションすることにより、幅広い臨床力をもつ整形外科医を育成するシステムを構築しておりました。中でも特徴的なのは、くじ引きで研修病院を決定する方法です。これは、毎年一回、同一研修年次の先生の間でくじ引きをし、病院選択の順番を決めます。「１番」のくじを引いた先生から順に、提示された病院群の中から来年度研修する病院を選択するというシステムです。極めて公平な制度であり、これまで研修してきたローテーターの先生たちには大変好評なシステムです。本プログラムにおいては、整形外科専門研修プログラム整備基準に則って、定められた 10 の研修領域（脊椎・脊髄、上肢・手、下肢、外傷、リウマチ、リハビリテーション、スポーツ、地域医療、小児、腫瘍）を 3 年 9 ヶ月間で修得していただけます。計画的な単位取得管理は必須となりますが、上記の通り豊富な連携施設を擁していますので、本プログラムでも従来通りの公平なくじ引きシステムを継続します。

本プログラム修了後は、プラス 2 年間の関連病院ローテーションによる研修を従来通りに行って

頂きます。4年間では整形外科医としては決して一人前とは言えません。豊富な症例を有する各研修施設で、これまで身につけてきた基礎力・専門力を遺憾なく発揮し、さらには後輩の専攻医を自ら指導することにより、より安心・安全・速やかに一人前の整形外科医となっていただけます。

また、大学院への進学については、プログラム途中でも選択可能となります。大学院への進学希望がある場合には、九州大学整形外科医局が毎年行うアンケート調査にその旨を記載してください。

４．九州大学整形外科専門研修プログラムの概要

整形外科専門研修は1ヶ月の研修を1単位とする単位制をとります。全カリキュラムを脊椎・脊髄、上肢・手、下肢、外傷、リウマチ、リハビリテーション、スポーツ、地域医療、小児、腫瘍の10の領域に分割し、基幹施設および連携施設をローテーションすることで、それぞれの領域で定められた単位数を修得し、3年9ヶ月の間で45単位を修得する修練プロセスで研修を行います。

４．１　基幹施設

九州大学病院を基幹施設とします。大学病院での研修は必修であり、そのローテーション期間は3~12ヶ月となります。九州大学病院では「地域医療」以外の全領域を研修することができ、各領域で専門性の高い診療を経験できます。また、救命救急センターにもローテーション枠がありますので、大学病院にいながら外傷を中心とした三次救急を学ぶこともできます。

学術活動に関わりを持ちやすいことも大学病院の特徴です。マンスリーに開催される九州大学主催の研究会では、全国の最先端で活躍されている講師陣をお招きして各専門領域の講演をしていただきます。本研究会では最先端の知識に接する機会を得られるだけでなく、専門医取得に必要な日本整形外科学会教育研修講演単位を全領域において効率よく取得できるようになっています。また、各診療グループでは大学院の先生を含めた抄読会・研究データセッションを開催していますので、やる気のある先生は世界的な研究に触れることもできます。学会発表や論文作成についても大学教員が責任を持って指導を行います。

【九州大学病院整形外科　週間スケジュール】

	7:30	8:30	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	16:30
月	術後カンファレンス	総回診		病棟業務							
		外来新患予診		本診			腫瘍・RA・上肢・手外科再来				
火	診療グループ別抄読会		回　診	病　棟　業　務							
		手術									
		脊椎・足の外科再来・他科受診					脊椎再来				
水			回　診	病　棟　業　務							
		手術									
		外来新患予診		本診			股関節・小児整形再来				
木			回　診	病　棟　業　務							
		手術									
		膝関節・スポーツ再来・他科受診									
金			回　診	病棟業務				術前カンファレンス	病棟業務		
		外来新患予診・一般再来		本　診					検査（ミエログラフィなど）		
		手術									

４．２　連携施設

年間 2000 例以上の手術件数を誇る九州労災病院を筆頭に、47 の関連施設が含まれます。福岡市内および北九州市内の主要病院はもちろん、県外では、広島赤十字原爆病院（平成 26 年度手術件数 940 例）、山口赤十字病院（同 664 例）、下関市立市民病院（同 1089 例）、佐賀県医療センター好生館（同 1147 例）、大分赤十字病院(同 574 例)、別府医療センター（同 608 例）、佐世保共済病院（同 818 例）、県立宮崎病院（同 738 例）など、地方の研修施設はいずれも各地域（広島県、山口県、佐賀県、大分県、長崎県、宮崎県）の中核病院です。地方における整形外科診療は、地域医療研修として病病連携・病診連携を経験することを目的としていますが、これら地方中核病院では高度な知識が要求される症例が数多く集まります。地域医療研修ではこれらの難易度の高い症例の臨床経験を積むことも目的としています。

また、関連病院の専門性に関しては、脊椎・脊髄疾患専門施設として総合せき損センター、腫瘍専門施設として九州がんセンター、小児専門施設として福岡市立こども病院、福岡県立粕屋新光園、北九州市立療育センター、佐賀整肢学園こども発達医療センター、スポーツ整形関連施設として福岡整形外科病院など、各専門領域においても国内有数の研修病院が含まれており、他のプログラムでは実現することが難しい充実した病院群を形成しています。

これらの連携施設を原則 1 年毎にローテーションすることにより、幅広い知識と技術を習得することが可能となります。また、どの施設においても、西日本整形・災害外科学会（年 2 回開催）などの学会や研究会での発表機会を得ることができ、各施設の指導医が責任をもって指導します。次に、各施設の年間手術数、年間新患数、指導医数、取得可能領域分野を一覧に示します。

【基幹施設および連携施設における年間新患数および年間手術数】

施設名称	都道府県	新患数（2014）	手術数(2014)								
			脊椎	上肢・手	下肢	外傷	リウマチ	スポーツ	小児	腫瘍	計
九州大学病院	福岡県	1996	188	39	439	101	24	26	35	148	1000
九州医療センター	福岡県	1559	340	68	208	132	124	0	0	0	872
福岡東医療センター	福岡県	1523	93	103	95	207	1	4	91	5	599
九州がんセンター	福岡県	221	2	0	0	1	2	0	0	91	96
粕屋新光園	福岡県	121	0	0	6	0	0	0	42	0	48
福岡市立こども病院	福岡県	1281	116	74	83	45	0	0	183	19	520
福岡市民病院	福岡県	1574	243	26	61	170	0	11	0	5	516
福岡赤十字病院	福岡県	2616	62	74	115	321	7	8	36	16	639
浜の町病院	福岡県	792	0	35	292	188	28	28	18	6	595
千早病院	福岡県	1948	31	71	60	245	1	10	0	18	436
九州中央病院	福岡県	2891	203	28	104	577	14	14	0	9	949
福岡逓信病院	福岡県	385	0	5	0	0	0	0	0	0	5
福岡整形外科病院	福岡県	9424	87	431	712	172	14	207	124	28	1775
豊栄会病院	福岡県	1415	49	63	209	267	14	14	9	11	636
溝口外科整形外科病院	福岡県	10559	0	596	201	405	10	43	161	62	1478
佐田厚生会佐田病院	福岡県	6738	276	47	86	103	4	15	25	15	571
原三信病院	福岡県	2260	3	45	119	282	0	20	7	9	485
諸岡整形外科病院	福岡県	3629	48	151	128	298	1	39	22	62	749
福岡みらい病院	福岡県	2937	42	115	867	0	0	0	0	0	1024
小倉医療センター	福岡県	971	61	5	7	86	0	0	0	141	300
九州労災病院	福岡県	4800	242	230	570	669	117	63	95	48	2034
JCHO九州病院	福岡県	1259	188	76	302	287	6	5	48	3	915
北九州市立療育センター	福岡県	257	0	5	53	7	0	0	69	0	134
北九州市立医療センター	福岡県	3034	367	123	87	135	12	5	10	10	749
済生会八幡総合病院	福岡県	1910	2	150	61	106	0	14	1	0	334
JR九州病院	福岡県	1257	0	34	85	87	1	2	0	12	221
製鉄記念八幡病院	福岡県	1611	50	49	141	243	5	1	0	5	494
正和中央病院	福岡県	5153	0	39	238	225	2	13	14	20	551
飯塚病院	福岡県	1849	6	370	262	499	37	24	90	11	1299
田川市立病院	福岡県	3212	0	189	232	310	6	37	6	21	801
総合せき損センター	福岡県	6003	703	0	0	62	0	3	0	0	768
明治記念病院	福岡県	834	0	38	84	30	0	0	0	16	168
朝倉医師会病院	福岡県	3008	0	202	21	117	0	59	24	21	444
古賀病院21	福岡県	2788	108	175	202	198	8	16	3	15	725
小倉記念病院	福岡県	1473	1	42	49	64	0	1	0	8	165
佐賀県医療センター好生館	佐賀県	3005	162	92	121	540	32	58	128	14	1147
佐賀整肢学園こども発達医療センター	佐賀県	394	1	11	25	1	0	0	181	2	221
唐津赤十字病院	佐賀県	2056	141	43	79	358	4	11	15	7	658
佐世保共済病院	長崎県	2975	2	206	161	367	4	29	24	25	818
大分赤十字病院	大分県	826	66	73	111	231	50	20	15	8	574
別府医療センター	大分県	2895	93	79	76	259	9	30	51	11	608
県立宮崎病院	宮崎県	3579	150	47	145	418	7	42	56	15	880
潤和会記念病院	宮崎県	1264	0	16	71	135	0	7	0	1	230
山口赤十字病院	山口県	2489	2	29	190	334	19	45	38	7	664
下関市立市民病院	山口県	2949	314	36	286	448	0	0	0	5	1089
広島赤十字・原爆病院	広島県	2536	145	217	199	322	12	8	16	28	947
JCHO登別病院	北海道	1975	27	36	41	138	0	0	6	3	251
九州大学病院別府病院	大分県	898	229	0	0	1	0	0	0	0	230
		121129	4843	4583	7684	10191	575	932	1643	961	31412

【基幹施設および連携施設における指導医数および取得可能領域分野】

研修病院	指導医数	脊椎	上肢・手	下肢	外傷	リウマチ	スポーツ	小児	腫瘍	リハビリ	地域医療
九州大学病院	15	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
九州医療センター	2	○	○	○	○	○				○	
福岡東医療センター	2	○	○	○	○			○		○	
九州がんセンター	1	○							○	○	
粕屋新光園	1			○				○		○	
市立こども病院	1		○	○				○			
福岡市民病院	3	○	○	○	○		○		○	○	
福岡赤十字病院	1	○		○	○						
浜の町病院	2		○	○	○	○	○	○			
千早病院	1			○	○	○					
九州中央病院	3	○	○	○	○	○	○		○	○	
福岡逓信病院	0										
福岡整形外科病院	2	○	○	○	○	○	○				
豊栄会病院	1			○	○			○			
溝口外科整形外科病院	2		○	○	○	○	○	○			
佐田病院	1	○		○	○						
原三信病院	1			○	○		○				
諸岡整形外科病院	1			○	○	○					
福岡みらい病院	2	○	○		○	○	○		○		
小倉医療センター	2	○	○	○	○				○	○	
九州労災病院	8	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
JCHO九州病院	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
北九州市立療育センター	2		○	○	○			○		○	
北九州市立医療センター	1	○	○		○						
済生会八幡総合病院	2	○	○	○	○		○			○	
JR九州病院	2		○	○	○	○	○			○	
製鉄記念八幡病院	2		○	○	○	○	○			○	
正和中央病院	1			○				○	○		
飯塚病院	2		○	○	○	○	○				○
田川市立病院	1			○			○				○
総合せき損センター	3	○			○		○			○	○
明治記念病院	1		○	○	○						
朝倉医師会病院	1		○	○	○						
古賀病院21	2	○	○	○	○					○	○
佐賀県医療センター好生館	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
佐賀整肢学園こども発達医療センター	2	○	○	○				○		○	○
唐津赤十字病院	3	○	○	○	○	○	○	○		○	○
佐世保共済病院	1		○	○	○						
大分赤十字病院	2	○	○	○	○	○	○				
別府医療センター	1	○	○		○						
県立宮崎病院	2	○		○	○	○			○	○	
潤和会記念病院	1		○	○	○						
山口赤十字病院	1			○	○						○
下関市立市民病院	2	○	○	○	○					○	○
広島赤十字・原爆病院	2	○	○	○	○		○	○			
JCHO登別病院	1	○			○						○
九州大学病院別府病院	2	○			○					○	○
小倉記念病院	1		○	○	○						

４．３　研修ローテーションの具体例と単位取得例

次に研修ローテーションの具体例と単位取得例を示します。豊富な病院群により、幅広い知識と技術の習得が可能となります。また、流動単位（5 単位）が設定されているため、必修単位取得後にさらなる経験が必要と考えられる分野や、将来希望するサブスペシャリティ領域を重点的に研修することが可能です。

【研修ローテーションの具体例】

	1年目		2年目		3年目		4年目	
	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半
専攻医1	大学	九州医療センター	製鉄記念八幡病院		広島赤十字病院		こども病院	
専攻医2	九州医療センター	大学	飯塚病院		北九州市立療育センター		福岡整形外科病院	
専攻医3	大学	福岡東医療センター	田川市立病院		下関市立市民病院		総合せき損センター	
専攻医4	福岡東医療センター	大学	佐賀県医療センター好生館		山口赤十字病院		下関市立市民病院	
専攻医5	大学	浜の町病院	佐世保共済病院		潤和会記念病院		県立宮崎病院	
専攻医6	浜の町病院	大学	別府医療センター		県立宮崎病院		唐津赤十字病院	
専攻医7	大学	九州中央病院	大分赤十字病院		佐世保共済病院		古賀病院21	
専攻医8	九州中央病院	大学	県立宮崎病院		古賀病院21		豊栄会病院	
専攻医9	大学	大学（救命救急）	下関市立市民病院		JR九州病院		佐田病院	
専攻医10	大学（救命救急）	大学	広島赤十字・原爆病院		JCHO九州病院		朝倉医師会病院	
専攻医11	福岡市民病院		大学	こども病院	総合せき損センター		佐賀県医療センター好生館	
専攻医12	福岡赤十字病院		こども病院	大学	九州医療センター		田川市立病院	
専攻医13	千早病院		大学	九州がんセンター	唐津赤十字病院		九州労災病院	
専攻医14	原三信病院		九州がんセンター	大学	福岡東医療センター		山口赤十字病院	
専攻医15	小倉医療センター		大学	新光園	浜の町病院		JCHO登別病院	
専攻医16	九州労災病院		新光園	大学	九州中央病院		九州大学別府病院	
専攻医17	JCHO九州病院		大学	溝口外科整形外科病院	JCHO登別病院		諸岡整形外科病院	
専攻医18	北九州市立医療センター		溝口外科整形外科病院	大学	千早病院		北九州市立療育センター	
専攻医19	済生会八幡総合病院		大学	諸岡整形外科病院	原三信病院		九州労災病院	
専攻医20	JR九州病院		諸岡整形外科病院	大学	済生会八幡総合病院		福岡市民病院	
専攻医21	製鉄記念八幡病院		福岡赤十字病院		大学	福岡整形外科病院	北九州市立医療センター	
専攻医22	飯塚病院		小倉医療センター		福岡整形外科病院	大学	別府医療センター	
専攻医23	田川市立病院		九州医療センター		大学	佐賀整肢学園	九州中央病院	
専攻医24	佐賀県医療センター好生館		九州労災病院		佐賀整肢学園	大学	潤和会記念病院	
専攻医25	佐世保共済病院		JCHO九州病院		大学	新光園	溝口外科整形外科病院	
専攻医26	別府医療センター		北九州市立医療センター		新光園	大学	浜の町病院	
専攻医27	大分赤十字病院		豊栄会病院		大学	こども病院	飯塚病院	
専攻医28	県立宮崎病院		佐田病院		こども病院	大学	製鉄記念八幡病院	
専攻医29	下関市立市民病院		朝倉医師会病院		大学	九州がんセンター	福岡赤十字病院	
専攻医30	広島赤十字・原爆病院		JCHO登別病院		九州がんセンター	大学	福岡東医療センター	

＊毎年くじ引きをして、次年次のローテーション病院を決めます。

【単位取得例】

専攻医1

領域	必須単位	1年目 大学	1年目 九州医療センター	2年目 製鉄記念八幡病院	3年目 広島赤十字病院	4年目 こども病院
脊椎	6	3				3
上肢・手	6			3		3
下肢	6		3	3		
外傷	6			3	3	
リウマチ	3		3			
リハビリ	3					3
スポーツ	3			1	2	
地域医療	3				3	
小児	2				2	
腫瘍	2	2				
流動	5	1		2	2	
合計		12		12	12	9

専攻医2

領域	必須単位	1年目 九州医療センター	1年目 大学	2年目 飯塚病院	3年目 北九州市立療育センター	4年目 福岡整形外科病院
脊椎	6		3			3
上肢・手	6			3		3
下肢	6			3		3
外傷	6			3	3	
リウマチ	3	3				
リハビリ	3				3	
スポーツ	3		1	1	1	
地域医療	3				3	
小児	2				2	
腫瘍	2		2			
流動	5	3		2		
合計		12		12	12	9

専攻医3

領域	必須単位	1年目 大学	1年目 福岡東医療センター	2年目 田川市立病院	3年目 下関市立市民病院	4年目 総合せき損センター
脊椎	6		3			3
上肢・手	6			3	3	
下肢	6			3	3	
外傷	6			3		3
リウマチ	3	2	1			
リハビリ	3				3	
スポーツ	3		1		2	
地域医療	3			3		
小児	2	2				
腫瘍	2	2				
流動	5		1		1	3
合計		12		12	12	9

５．九州大学整形外科専門研修後の成果

九州大学整形外科研修プログラムを修了した専攻医は、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技能を修得できるような幅広い基本的な臨床能力（知識・技能・態度）が身についた整形外科専門医となることができます。また、同時に専攻医は研修期間中に以下の基本的診療能力（コアコンピテンシー）も習得できます。

１）患者への接し方に配慮し、患者や医療関係者とのコミュニケーション能力を磨くこと 。

２）自立して、誠実に、自律的に医師としての責務を果たし、周囲から信頼されること（プロフェッショナリズム)。

３）診療記録の適確な記載ができること。

４）医の倫理、医療安全等に配慮し、患者中心の医療を実践できること。

５）臨床から学ぶことを通して基礎医学・臨床医学の知識や技術を修得すること。

６）チーム医療の一員として行動すること

７）後輩医師に教育・指導を行うこと 。

６．研修方法

参照資料

整形外科専門研修プログラム整備基準および付属資料（日本整形外科学会 HP）

https://www.joa.or.jp/jp/edu/files/main.html

６．１　基本方針

整形外科専門研修プログラム整備基準付属資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」と同じく付属資料 13「整形外科専攻医研修マニュアル」に沿って、九州大学病院（基幹施設）および連携施設群において研修を行います（日本整形外科学会ホームページ参照)。専門知識習得の年次毎の到達目標と専門技能習得の年次毎の到達目標は、整形外科専門研修プログラム整備基準付属資料 1「専門知識習得の年次毎の到達目標」、資料 2「専門技能習得の年次毎の到達目標」を参照して下さい。

研修実績の記録と評価には、日本整形外科学会整形外科専門医管理システム（web）を用います。専攻医は、各研修領域終了時および研修施設移動時に日本整形外科学会が作成したカリキュラム成績表の自己評価欄に行動目標毎の自己評価を行います。また指導医評価表で指導体制、研修環境に対する評価を行います。指導医は、専攻医が行動目標の自己評価を終えた後にカリキュラム成績表の指導医評価欄に専攻医の行動目標の達成度を評価します。また、指導医は抄読会や勉強会、カンファレンスの際に、専攻医に対して教育的な建設的フィードバックを行うことを心がけます。

研修実績と評価をもとに、専門研修 4 年目（研修開始から 3 年 9 ヶ月）に専門研修プログラム管理委員会において、専門研修終了判定を行います。判定基準は以下の通りです。

１）各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること。

２）行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること。

３）臨床医として十分な適性が備わっていること。

４）研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により30 単位を修得していること。
５）1 回以上の学会発表、筆頭著者として 1 編以上の論文があること。
の全てを満たしていることである。

６．２　研修計画

整形外科の研修で経験すべき疾患・病態は、骨、軟骨、筋、靭帯、神経などの運動器官を形成するすべての組織の疾病・外傷・加齢変性です。また新生児、小児、学童から成人、高齢者まで全ての年齢層が対象となり、その内容は多様です。この多様な疾患に対する専門技能を研修するために、整形外科専門研修は 1 ヶ月の研修を 1 単位とする単位制をとり、全カリキュラムを 10 の研修領域に分割し、4 年間で 48 単位を修得する修練プロセスで研修していただきます。

① 専門知識の習得計画

本研修プログラムでは、専門知識を整形外科専門研修プログラム整備基準付属資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って研修し、知識能習得状況を 6 ヶ月毎に評価します（自己評価および指導医評価)。専門研修プログラム管理委員会による専攻医面接を年一回行い、知識習得に関する目標設定・取得単位調整・指導を行います。

② 専門技能の習得計画

本研修プログラムでは、専門技能を形外科専門研修プログラム整備基準付属資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」と同じく付属資料 13「整形外科専攻医研修マニュアル」に沿って研修し（日本整形外科学会ホームページ参照)、技能習得状況を 6 ヶ月毎に評価します（自己評価および指導医評価)。専門研修プログラム管理委員会による専攻医面接を年一回行い、知識習得に関する目標設定・取得単位調整・指導を行います。

③ 経験目標（経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等）

経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等は、整形外科専門研修プログラム整備基準付属資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って研修します。九州大学病院および連携施設での切れ目のない研修により、これらは十分に経験することができます。

④ プログラム全体および各施設によるカンファレンス等の学習機会

専攻医は 1~2 研修年次の間に一回、九州大学病院で年一回開催される「九大骨折治療研修会」に参加し、外傷診療を行うための基本事項を学習していただけます。また、九州大学病院で毎年開催される「九州・山口地区小児整形外科教育研修会」に参加することにより、小児診療を行うための基本事項を学習いただけます。

各施設において抄読会や勉強会を実施し、最新の医療情報を修得できます。また、診療科におけるカンファレンスおよび関連診療科との合同カンファレンスを通して、病態と診断過程を深く理解し治療計画作成の理論を学ぶとともに、他職種との協力や養成にリーダーシップを図れるように指導します。

⑤　習得すべき学問的姿勢

臨床的な疑問点を見出して解明しようとする意欲を持ち、その解答を科学的に導き出し、論理的に正しくまとめる能力を修得することを目標に、以下の行動目標を定めています。

1）経験症例から研究テーマを立案しプロトコールを作成できる。

2）研究に参考となる文献を検索し、適切に引用することができる。

3）結果を科学的かつ論理的にまとめ、口頭ならびに論文として報告できる。

4）研究・発表媒体には個人情報を含めないように留意できる。

5）研究・発表に用いた個人情報を厳重に管理できる。

6）統計学的検定手法を選択し、解析できる。

⑥　実施すべき学術活動とその指導体制

研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により 30 単位を修得します。九州大学整形外科が毎月主催する Monthly Orthopaedics Conference に参加することにより、多領域にわたる講演をまんべんなく聞くことができ、効率よく単位取得ができます。

また、研修期間中に 1 回以上の学会発表、筆頭著者として 1 編以上の論文を作成するよう指導します。専門研修プログラム管理委員会は、全専攻医の学会発表数および論文執筆数を年一回集計し、面接時に指導・助言します。いずれの施設においても、図書館やインターネット環境などの研修・研究環境は整備されています。

⑦　コアコンピテンシーの研修計画（医療倫理、医療安全、院内感染対策等）

整形外科専門医としての臨床能力（コンピテンシー）には、専門的知識・技能だけでなく、医師としての基本的診療能力（コアコンピテンシー）が重要であることから、どの領域から研修を開始してもコアコンピテンシーを身につけさせることを重視しながら指導し、さらに専攻医評価表を用いてフィードバックをすることによってコアコンピテンシーを早期に獲得することを目標とします。

九州大学病院および各連携施設の医療倫理・医療安全講習会に参加し、その参加状況を年一回専門研修プログラム管理委員会に報告します。

⑧　地域医療に関する研修計画

本プログラムの研修施設群には、福岡県内に 9 施設、佐賀県に 3 施設、大分県に 3 施設、長崎県に 1 施設、宮崎県に 2 施設、山口県に 2 施設、広島県に 1 施設、北海道に 1 施設と、全部で 21 施設の地域医療を経験できる施設がふくまれており、少なくとも 1 名以上の整形外科専門医が常勤しているため指導体制は十分です。従って、本プログラムのすべての専攻医は、少なくとも一つの施設に原則一年間勤務することで、他領域の研修とともに地域医療の研修が可能となります。「常勤医の異動等により指導体制が不十分である」と専門研修プログラム管理委員会が判断した施設には、専攻医を派遣することはありません。

⑨　サブスペシャリティ領域との連続性について

整形外科専門医のサブスペシャリティ領域として、日本脊椎脊髄病学会専門医、日本リウマチ学会専門医、日本手外科学会専門医があります。本プログラムの九州大学病院および連携施設にはこ

れらサブスペシャリティ領域の研修認定施設が複数施設ずつ含まれています。整形外科専門研修期間からこれらのサブスペシャリティ領域の研修を行うことができ、専攻医のサブスペシャリティ領域の専門研修や学術活動を支援します。また、これらの他にも整形外科には腫瘍、股関節、膝関節、肩関節などのサブスペシャリティ領域が多く、各分野のエキスパートが各連携施設の指導責任者となっておりますので、より深みのある研修が可能です。

６．３　研修およびプログラムの評価計画

①　専攻医の評価時期と方法

専攻医および指導医は研修記録による研修実績評価を 6 ヶ月に 1 回行います。専攻医は研修プログラムの取得単位（年度末時の見込み）、学会発表・論文執筆数、教育研修講演受講状況を年一回の面接時（1 月末頃）に専門研修プログラム管理委員会に提出し、専門研修プログラム委員会で評価します。

九州大学病院および各連携施設での他職種も含めた研修評価（態度も含めた総評）を各施設での研修終了時に行います。

専門研修 4 年目には研修期間中の研修目標達成度評価報告と経験症例数報告をもとに総合的評価を行い、専門的知識、専門的技能、医師としての倫理性、社会性などを習得したか、専門研修プログラム管理委員会において修了判定をします。

②　指導医層のフィードバック法の学習（FD）

指導医は、整形外科専門研修プログラム整備基準付属資料 12「整形外科指導医マニュアル」に沿って指導を行います（日本整形外科学会ホームページ参照）。指導医はまた、日本整形外科学会が行う指導医講習会等を受講してフィードバック法を学習し、より良い専門医研修プログラムの作成に努めています。指導医講習会には、フィードバック法を学習するために「指導医のあり方、研修プログラムの立案（研修目標、研修方略及び研修評価の実施計画の作成）、専攻医、指導医および研修プログラムの評価」などが組み込まれています。

③　専門研修プログラムの改善方法

専門研修プログラム管理委員会で年一回検討し、必要に応じてプログラム改善を行います。

1）専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

日本整形外科学会が作成した指導医評価表を用いて、各ローテーション終了時（指導医交代時）毎に専攻医による指導医や研修プログラムの評価を行うことによって研修プログラムの改善を継続的に行います。専攻医が指導医や研修プログラムに対する評価を行うことで不利益を被ることがないように保証します。

2）専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス

専攻医は、各ローテーション終了時に指導医や研修プログラムの評価を行います。その評価を元に、専門研修プログラム管理委員会では研修プログラムの改善に生かすようにするとともに指導医の教育能力の向上を支援します。

６．４　専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

専門研修プログラム管理委員会は、専攻医に対するアンケートと面接で施設の就業環境を調査します。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の専門研修指導責任者に文書で通達・指導します。

６．５　整形外科研修の休止、中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件について

傷病、妊娠、出産、育児、その他やむを得ない理由がある場合の休止期間は合計６ヶ月間以内とします。限度を超えたときは、原則として少なくも不足期間分を追加履修することが求められます。疾病の場合は診断書の、妊娠・出産の場合はそれを証明するものの添付が必要です。留学、診療実績のない大学院の期間は研修期間に組み入れることはできません。専門研修プログラムを移動するに際しては、移動前・後のプログラム統括責任者及び整形外科領域の研修委員会の同意が必要です。

７．専門研修プログラムを支える体制

①　専門研修プログラムの管理運営体制

専門研修基幹施設である九州大学病院および各専門研修連携施設においては、それぞれの施設の指導管理責任者および指導医の協力により専攻医の評価体制を整備します。専門研修プログラムの管理には日本整形外科学会が作成した指導医評価表や専攻医評価表などを用いて双方向の評価システムにより互いにフィードバックすることから研修プログラムの改善を行います。

上記目的達成のために、専門研修プログラムと専攻医を統括的に管理する専門研修プログラム管理委員会を九州大学整形外科医局に設置します。専門研修プログラム管理委員会には、次に掲げる者を構成員に含みます。

・専門研修プログラム統括責任者（基幹施設である九州大学病院の指導管理責任者が兼務します）
・副プログラム統括責任者
・各研修連携施設の指導管理責任者

②　専門研修プログラム管理委員会の役割と権限

1)　専門研修プログラム管理委員会は、研修プログラムの作成、研修プログラム相互間の調整、専攻医の管理及び専攻医の採用・中断・修了の際の評価等、専門医研修実施の統括管理を行います。

2)　専門研修プログラム管理委員会は研修の評価及び認定において、必要に応じて指導医から各専攻医の研修進捗状況について情報提供を受けることにより、各専攻医の研修進捗状況を把握、評価し、修了基準に不足している部分についての研修が行えるよう、指導医に指導・助言する等、有効な研修が行われるよう配慮します。

3)　専門研修プログラム管理委員会は、専攻医が専門医研修を継続することが困難であると認める場合には、当該専攻医がそれまでに受けた専門医研修に係る当該専攻医の評価を行い、指導管理責任者に対し、当該専攻医の専門医研修を中断することを勧告することができます。

4)　専門研修プログラム管理委員会は、専攻医の研修期間の終了に際し、専門医研修に関する当該専攻医の評価を行います。専門研修プログラム管理委員会の責任者である専門研修プログラム統括

責任者が、専門研修プログラム管理委員会における評価に基づいて、専攻医の最終的な研修修了判定を行ないます。

③　労働環境、労働安全、勤務条件

九州大学病院や各専門研修連携施設の病院規定によりますが、労働環境、労働安全、勤務条件等へ以下に示す配慮をします。

・研修施設の責任者は専攻医のために適切な労働環境の整備に努めます。
・研修施設の責任者は専攻医の心身の健康維持に配慮します。
・過剰な時間外勤務を命じないようにします。
・施設の給与体系を明示します。

８．専攻医の募集人数と応募方法

①　募集人数

本プログラム全体の指導医数は約 100 名、年間新患数はおよそ 11 万 8 千人、年間手術件数はおよそ 3 万件であり、質・量ともに十分な研修を提供できる体制にあります。また、過去 3 年間の入局者数は平均 21 人、最大 28 人でありました。以上より、「本プログラムの受け入れ数は 1 年次 30 名まで」、とします。

②　応募方法

後期研修開始前年度の 10 月 31 日までに、九州大学整形外科専門研修プログラム管理委員会（九州大学整形外科医局）にお問い合わせの上、研修申込書を提出してください。原則として 11 月末日までに採否を決定してご本人にご連絡いたします。応募締切および採否の時期につきましては、日本専門医機構の方針により前後する場合がございますので、必ず下記までお問い合わせの上ご確認ください。

お問い合わせ先
〒812-8582 福岡市東区馬出３－１－１
九州大学整形外科　医局長室
TEL: 092-642-5488
FAX: 092-642-5490
Email: seikei@ortho.med.kyushu-u.ac.jp